

諏訪市に生育している特定外来生物 その1

オオハンゴンソウ

- 分類 双子葉植物 合弁花類 キク科
- 生活型 多年草
- 原産国 北アメリカ
- 移入経路 明治中期に観賞用に輸入
※現在は外来生物法により本種の輸
入や流通は規制



■特徴

【花・種子】 1つの黄色い花に見える部分（頭状花）は、小さい花（管状花と舌状花）が多数集まっています。頭状花は直径6～10cm程度、開花は7～10月、種子は8月頃からできます。花はキクイモ似ています。1つの管状花が1つの種子になるため、多くの種子ができます。



頭状花

1つの花に見える部分は、
小さな花の集まりです

管状花

1つ1つが種子に
なります

舌状花

花びらの部分です



小さな丸い
部分が全て
管状花で、
1つ1つが
種子に
なります。

【葉】 芽生えや茎の下についている葉は深く裂けていますが、茎の上についている葉はあまり裂けていません。花が似ているキクイモの葉は全て裂けていません。



《茎の上の葉》



《芽生えの葉》



《茎の下の葉》



《参考：キクイモの葉》

【茎】 成長したものは高さ1～3mになります。茎にはまばらに短い毛があるか無毛です。地中には地下茎と呼ばれる茎が伸びており、種子だけでなくこの地下茎からも繁殖するため、地下茎も抜き取ることが大切です。



《成長した茎》



《地下茎》

■影響 貴重な環境(湿原や溪畔林等)等に侵入し、もともと生育していた植物を駆逐して生態系に悪影響を与えています。種子と地下茎で旺盛に繁殖するため、駆除には多くの時間と労力が必要です。

■近縁・類似する種

日本の在来種には、オオハンゴンソウと同じオオハンゴンソウ属の植物はありません。ヤエザキハンゴンソウ（ハナガサギク）、アラゲハンゴンソウ、オオミツバハンゴンソウなどの園芸品種があります。似た黄色い花にキクイモがあります。それらとの違いは、下記をご覧ください。【参考】特定外来生物同定マニュアル(環境省)

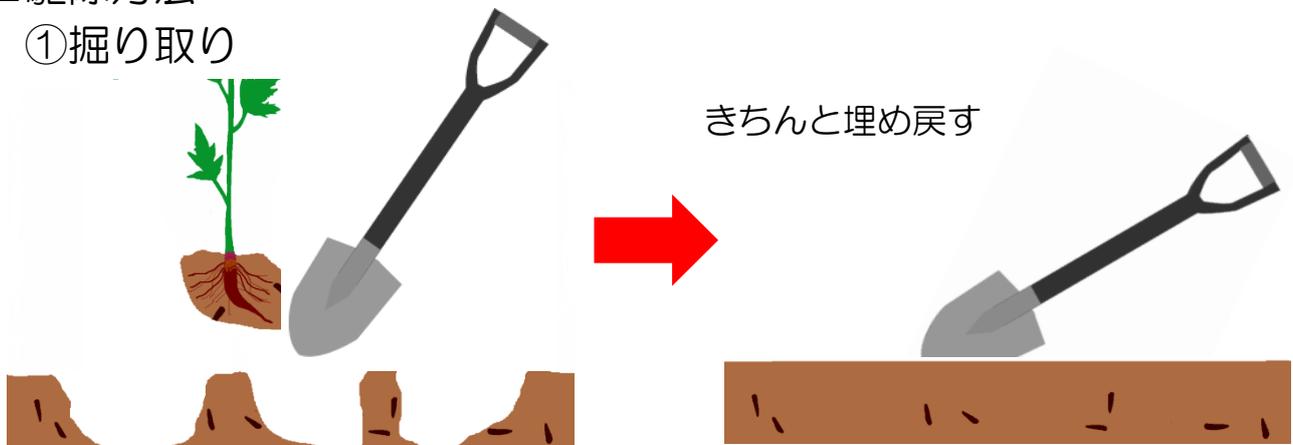
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual.html>

■駆除時期・注意点・駆除方法

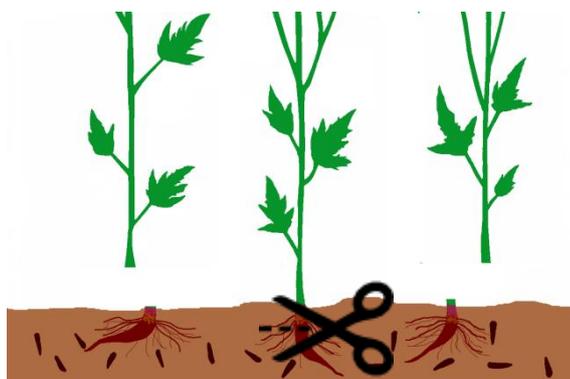
- 地下茎から繁殖することができるため、地下茎全てを除く掘り取りが効果的です。掘り取りできない場合は刈り取りも可能ですが、根本的な駆除にはなりません。いずれの方法も、作業時に種子が落ちて拡がることを防ぐために、種子ができる前に行うことが大切です。
- 種子は土壌内で数年間生きることができ、光が当たると発芽するため、駆除した場所からも翌年以降に生えてくる可能性があります。そのため、数年間継続した駆除が必要となります。

■駆除方法

①掘り取り



②刈り取り



- できるだけ根本から刈ってください。
- 掘り起こしてしまった場合にはきちんと埋め戻してください。

駆除したものは、他の場所に拡散しないように処分することが必要です。詳しい処分方法については、諏訪市役所環境課（電話0266-52-4141 内線214、215）までお問い合わせください。